

ドイツ語（初級 A） 第 2 回 綴りと発音

範囲：教科書扉、S¹. 6-7（CD トラック 1-3）

〈発音記号について〉（補足）

- ◇ 辞書や教科書を利用する都合上、発音記号は知っておく必要がある。発音記号は通常、大括弧[]のなかに書かれる。ドイツ語で使うものは以下の通り。
- ◇ 音声学の授業ではないので、「○○」音といった音声学上の音の名称自体をここで覚える必要はなく、記号がどういう音と対応しているのかだけ知っていればよい。
- ◇ 発音記号はあくまでも目安であり、実際の発音と一致しないこともある。ドイツ語の場合、特に[r]の音に注意（vgl². 教科書 S. 7）。
- ◇ 発音記号の詳しい説明は、辞書の冒頭などに載っていることが多い。
- ◇ 母音の発音記号は、下表の通り。

舌	前後		前舌		中舌	奥舌
高低	開口度\唇の形		非円唇	円唇	非円唇	円唇
高	狭	閉	i: i	y: y		u: u
中高	半狭	開	ɪ	ʏ		ʊ
		閉	e: e	ø: ø	ə	o: o
中低	半広	開	ɛ: ɛ	œ		
低	広		a a:			

- ・英語にない音は太字とした。ここを重点的にチェックすること。
- ・[e]と[ɛ]はともに「エ」に近いが、[ɛ]は[e]よりも口の開きが大きい。
- ・[y]／[ʏ]：口をすぼめて「ユ」のように発音。英語でアルファベット u を読むときの音。
- ・[ø]／[œ]：「口をオのかたちにしてエと発音する」と考える（これが最も難しい）。
 - * 日本語にカナ転写するときはエ段で書かれる場合が多い。Goethe が「ゲータ」になるなど。
- ・ドイツ語の[ə]は英語と異なって[e]に近い発音をする傾向がある。
- ・二重母音は[ai]、[au]、[ɔʏ]。[ai]は「アイ」、[ɔʏ]は「オイ」と考えてよい。[au]は「アウ」より「アオ」に近いと考える。
 - （・英語と異なり、ドイツ語ではフランス語由来の外来語についてはフランス語風の鼻母音の発音をする。発音記号としては、[ɑ̃ː]／[ɑ̃]（Chance など）、[ɛ̃ː]／[ɛ̃]／[œ̃ː]／[œ̃]（pointieren、Parfum など）、[ɔ̃ː]／[ɔ̃]（Pavillon など）も登場する。）

¹ „S.“は„Seite“と読み、「ページ」の意味。英語風に「p. ○○」と書くのと同じ。

² „vgl.“は„vergleiche“と読み、「参照せよ」の意味。英語などの“cf. (confer)”と同じ。

◇ 子音の発音記号は、下表の通り。

調音様式\調音位置		両唇音	唇歯音	歯～ 歯茎音	硬口蓋 歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	口蓋垂音	声門音
障害音	無声破裂音	p		t			k		
	有声破裂音	b		d			g		
鳴音	鼻音	m		n			ŋ		
	流音	側音		l					
		ふるえ音			r				R
		はじき音			r				R
障害音	無声摩擦音		f	s	ʃ	ç	x		h
	有声摩擦音		v	z	(ʒ)	j		ʁ	
	無声破擦音	pf		ts	tʃ				
	有声破擦音				(dʒ)				

・英語にない、もしくは発音が異なる音は太字に、外来語にのみ現れる音には丸括弧表記した。

- ・ [pf] : 敢えてカタカナ書きすると「プフ」、母音を入れずに一気に発音。
- ・ [ç] : 「ヒ」に近いが、もちろん母音は入れずに発音してください。
- ・ [x] : 喉の奥に挟まった小骨などを取ろうとしてとして一瞬だけ激しく息を吐き出すときの音 (言葉での説明が難しい)。
- ・ 綴字 r の発音には、舌先のふるえ音 ([r])、口蓋のふるえ音 ([R])、舌先のはじき音 ([r])、口蓋の摩擦音 ([ʁ]) の 4 種類があり、どれを採用してもよい。ただし、現代ドイツ語では [R] が使われることが多く、[r] (いわゆる巻き舌) は演劇や朗読でのみ用いられる傾向が強い。これらは厳密にはすべて異なる発音であり、それに応じて発音記号も 4 種類あるが、辞書や教科書ではほぼ [r] に統一されて記述されている。

教科書扉 Das Alphabet (教科書の扉、CD トラック 1)

◇ ドイツ語のアルファベットは英語のものと基本的に同じで、

- ・ A/a と O/o と U/u に **ウムラウト (Umlaut)** 付の文字 (それぞれ **Ä/ä, Ö/ö, Ü/ü**) が存在する、
- ・ 小文字のみ **ß (エスツェット、Eszett)** が存在する

点だけ異なる。

◇ ß は、直前に長母音か二重母音が来る場合にのみ使われ、それ以外では ss と綴る。ただし、スイスではすべて ss と綴る。Vgl. 教科書 S. 18。

◇ 各文字の名称を覚えること。今後の授業では、アルファベットについては、すべて英語読みではなくドイツ語読みを採用する。

〈ドイツ語の特殊文字の端末での打ち方〉（補足）

- ◇ 現在のメディア環境を考えても、またふたたびオンライン授業を余儀なくされる可能性を想定しても、各種の端末（パソコン、スマートフォン、タブレット）でドイツ語の特殊文字を打鍵することを覚えておいた方がよい。
- ◇ パソコンの場合：
 - ・ OS によって方法が異なる。
 - ・ 例えば Windows 10 では、左下のスタートボタンから「設定＞時刻と言語＞言語＞優先する言語を追加する」の順で選択していき、「インストールする言語を選択してください」の画面で「ドイツ語」を選ぶ。すると、タスクバー右のインジケータの言語アイコンをクリックしてデフォルトのキーボードをドイツ語キーボードに変換できるようになり、それを選ぶと、「:」のキーで ä、「;」のキーで ö、「@」のキーで ü、「-」のキーで ß が打てるようになる（ドイツで売られているキーボードの配置と同じ）。
 - ・ ほかの OS の場合は、「OS 名 ドイツ語 キーボード」などで Google 検索して調べるとよい。
- ◇ スマートフォンやタブレットの場合：
 - ・ 入力ウィンドウで a を長押しすると、ä をはじめとする各言語の a に関連する特殊文字が選択できる。ö は o、ü は u、ß は s で同じことをすればよい
- ◇ ドイツ語の特殊文字がどうしても打てない状況の場合（タイプライター時代など）、
 - ・ ä : ae
 - ・ ö : oe
 - ・ ü : ue
 - ・ ß : ss

で代用可能とされていた。現在でもメールなどでの文字化け対策で使うことがある。

〈綴りと発音〉（教科書 S.6-7、CD トラック 2-3）

- ◇ ドイツ語の名詞は語頭を大文字にする。
 - ◇ 教科書 S. 6 冒頭のルール
 - ・ ドイツ語単語の発音は、比較的ローマ字読みに近い
 - ・ アクセントは原則として第一音節に置かれる
- のほか、
- ・ アクセントのある母音のあとの子音が 1 つならその母音は長母音、2 つなら短母音を覚えておくとよい（いずれも例外あり）。
- ◇ a、e、i、o、u はローマ字読みでよい。aa、ee、oo のように 2 つ重ねると必ず長母音になる。
 - ◇ ウムラウト付きの母音 ä、ö、ü は、先に学んだ[ɛ]、[ø]／[œ]、[y]／[ʏ]になる。なお、y も [y]／[ʏ]と発音。

- ◇ 二重母音で注意が必要なのは、ei、eu、äu の 3 つ。ei は[ai]、eu および äu は[ɔʏ]。
- ◇ ie は、外来語でなくとも[ie]となる場合もある。Ferien (休暇) など。
- ◇ 母音のあとの h は、母音字を伸ばして長母音にせよ、という意味。
- ◇ b、d、g は、
 - ・語末、音節末、別の子音の直前では無声音 ([p]、[t]、[k])。
 - ・それ以外では有声音 ([b]、[d]、[g])。
- ◇ ig は、あとに母音が続く場合は[ig]と有声音化する。Königin (女王) など。
- ◇ ch は、
 - ・a、u、o、au のあとでは[x]。
 - ・それ以外では[ç]。
 - ・ただし、chs となると無条件で[ks]。
- ◇ j はヤ行の発音 ([j])。
- ◇ pf は[pf]の発音。
- ◇ qu は[kv]の発音、謎の (?) [v]音が入ることに注意。
- ◇ r の発音は複雑。
 - ・基本形は喉の奥を震わせる[r]。
 - ・語末や母音のあとでは母音化して[v]になることが多い。ihr (人称代名詞、所有代名詞)、Uhr (時計)、Irrtum (誤り) など。
- ◇ er となった場合、
 - ・人称代名詞 er、定冠詞 der、動詞 werden (～になる)、形容詞 schwer (重い) などの場合、発音記号は[er]ないし[ɛ:r]と表記されるが、実際の発音は[ea]に近くなる (正確に記せば[ev])。アルファベートの R/r の名称も同様。
 - ・それ以外の単語 (Mutter など) の場合、発音記号は[mótar]のように表記されるが、実際の発音は[móta:]に近くなる (正確に記せば[mótv])。
- ◇ s は、
 - ・母音の前では有声音 ([z])。
 - ・それ以外では無声音 ([s])。
- ◇ s、ß は必ず[s]。前述のように、使い分けに関してはのちに扱う。 ⇒教科書 S. 18
- ◇ sch は[ʃ]の発音。英語の綴字 sh と同じ。
- ◇ sp や st は、
 - ・基本的に語頭では[ʃp]や[ʃt]、
 - ・合成語の後半の語頭でも[ʃp]や[ʃt]、Baustein (石材、構成要素) など、
 - ・それ以外では[sp]や[st]、
 - ・語頭でも外来語なら[sp]や[st]、Steak (ステーキ) など、と考えてよいが、例外もあるので注意。
- ◇ th や dt は単に[t]の発音。

- ◇ tsch は[tʃ] の発音。英語の綴字 *ch* と同じ。
- ◇ z、ds、ts、tz はどれも[tʰs]の発音。z が[z]ではないのに注意。
- ◇ v は基本的に[f]の発音。ただし、外来語では[v]のままのこともある。
- ◇ w は[v]の発音。
- ◇ x は必ず[kʰs]の発音。英語のように濁ることはない。

〈簡単な挨拶〉 （補足）

- ◇ 綴りと発音の例として、簡単な挨拶を覚えてみよう。なぜかこの教科書には挨拶の項目がないが、朝日出版社提供のオンライン音声教材 (<https://www.youtube.com/watch?v=hxOXWBrDwc0>) を利用できる。現段階では、動画に出てくるもののうち、以下を覚えておけばよい。
- ◇ 発音の練習にもなるので、綴字と発音の関係をよく確認しておくこと。
- ◇ 朝晩の挨拶 (0:00～)
 - ・ Guten Morgen! おはようございます。
 - ・ Guten Tag! こんにちは。
 - ・ Guten Abend! こんばんは。
 - ・ Gute Nacht! おやすみなさい。

* なぜ guten と gute、2 種類のかたちが出てくるのか? (⇒教科書第 2 課)
- ◇ 別れ (1:00～)
 - ・ Auf Wiedersehen! さようなら。
 - ・ Tschüs! じゃあね。
- ◇ お礼 (1:45～)
 - ・ Bitte Schön! - Danke Schön! 「どういたしまして」「ありがとうございます」
- ◇ ご機嫌いかがい (4:40～)
 - ・ Wie geht es Ihnen? – Danke, gut. 「お元気ですか?」「ありがとうございます、おかげさまで」
 - so la la. 「まあまあですね」
 - schlecht. 「調子はよくないですね」
 - ・ Wie geht's dir? – Danke, gut. 「元気?」「ありがとう、元気だよ。」

* Ihnen だと一般的な間柄に、dir だと親しい間柄になるのはなぜか? (⇒教科書第 1 課)

*****;
補足練習問題

以下のドイツ語の単語を発音せよ。

1. Mann (男) 2. Bett (ベッド) 3. Kino (映画館) 4. Foto (写真) 5. gut (よい)
6. kräftig (力強い) 7. Köln (ケルン) 8. Glück (幸福) 9. liegen (横たわる)
10. Reich (国) 11. Euphonium (ユーフォニアム) 12. Aal (ウナギ) 13. Boot (船)
14. halb (半分の) 15. Mond (月) 16. Krieg (戦争) 17. König (王)
18. Koch (コック) 19. China (中国) 20. München (ミュンヘン)
21. sechs (数字の 6) 22. ja (はい) 23. Pfeil (矢) 24. Quelle (泉)
25. bringen (持ってくる) 26. Lektor (講師) 27. Lehrer (教師) 28. Sohn (息子)
29. Weisheit (知恵) 30. heiß (暑い) 31. dass (英語でいう接続詞の *that*)
32. schön (美しい) 33. Sport (スポーツ) 34. Stunde (時間) 35. Thema (テーマ)
36. tschüs (さようなら) 37. Vetter (従兄弟) 38. Welt (世界)
39. Xenophobie (排外主義) 40. zusammen (一緒に)

*****;
連絡先など

教員のメールアドレス: tokan@nifty.com 教員のウェブサイト: <http://hasegawa.la.coocan.jp/>
授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>